

ジノプロストン腔用剤の効果不良因子に関する研究

2021年9月から2023年1月までに分娩誘発のためにジノプロストン腔用剤の投与を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「ジノプロストン腔用剤の効果不良因子に関する研究」という研究を行います。この研究は、2021年9月1日より2023年1月31日までに日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科にて、分娩誘発のためにジノプロストン腔用剤の投与を受けられた患者さんの分娩転機を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただき、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：ジノプロストン腔用剤の効果不良因子に関する研究
研究期間：倫理委員会承認後 ～ 2025年3月31日
研究データ使用期間：2021年9月1日 ～ 2023年1月31日
研究責任者：日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科 滝澤彩子

(2) 研究の意義、目的について

分娩誘発の方法として様々な方法がありますが、ジノプロストン腔用剤は子宮頸管熟化作用と子宮収縮作用を持っているとされています。特に、従来のジノプロストン内服に比較して子宮頸管熟化作用がより高いとされていますが、この薬剤はどのような患者様により効果的で、どのような患者様には効果が出にくいのかはまだ明らかではありません。本研究は、ジノプロストン腔用剤の効果不良因子が何かを明らかにすることを目的とします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2021年9月1日より2023年1月31日までに日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科にて、ジノプロストン腔用剤を受けられた患者さんの分娩転機などを診療録をもとに統計学的に解析し、ジノプロストン腔用剤の効果についての検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、経産回数、BIM、ジノプロストン腔用剤使用前後の子宮頸管熟化の評価スコア（Bishop Score）、分娩転機、分娩誘発の適応、等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科 助教 滝澤彩子
〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町 1-383
電話番号：044-733-5181（代表） 内線：3281
メールアドレス：ayako-i@nms.ac.jp